

私たちにとって酪農経営とは、  
この「場」の持つ自然や生態系と調和し、再生産が可能な経済活動です。

環境コストを意識し、環境負荷をできるだけ少なく。  
その活動は社会や環境に対する貢献であると考えています。

「乳」は、すべての哺乳類が生まれて最初に口にするものであり、いのちを支える源です。

そして「乳」は様々な食べ物に加工され、食卓を豊かにしてくれます。

私たちはこの「乳」を大切に、皆様の元へとお届けします。





### スタッフ

- 働きがいがあり、自己実現可能な職場をつくります。
- 組織を構成するかけがえの無いパートナーとして互いに信頼を築き、ともに成長します。



### お客様

- 企業活動を通じ、お客様の豊かな生活づくりに貢献します。
- 多様なコミュニケーション手段を提供しお客様との信頼関係を築きます。



### お取引先様

- 公平かつ公正な取引と相互の収益を確保します。
- 相互に信頼できるパートナーとして商品や市場の開発を協働で行います。



### 社会

- 風土に根ざした社会貢献活動を積極的に実施します。
- 自然との関わりを通じた教育活動に取り組みます。

経営理念  
食べる人のための  
農業を實踐し、  
次世代に  
継承し続ける企業



### 地域

- 地域資源を大切にし地域の価値を高めます。
- 地域社会に根ざし信頼関係を築きます。
- 人材育成に取り組みます。



### 土

- 土を作物やいのちを支える土台として守り続けます。
- バランスのとれた生きた土づくりから生物多様性の形成を図ります。



### 動植物

- 家畜は経済的なパートナーとして常に健康で快適であるよう環境づくりに取り組みます。
- 作物には気候風土に適した栽培環境を整備します。



### 環境

- 持続可能な循環型農業の実践により環境負荷を低減します。
- 廃棄物の発生を削減しゼロミッションを目指します。
- 気候風土に合った自然生態系の形成に取り組みます。

## 牧場マップ

□ ほ場番号 1～9が放牧地です。

毎日、常に新鮮な草が食べれるように畑をローテーションします。



## 草地

生物多様性  
環境に適した  
生態系の維持

## 家畜

放牧飼育  
健康で快適な  
環境を整備

防風林

## 乳

本質の探究  
飲む人の健康に寄与する品質

☺ 水飲み場 🌲 防風林

## 環境

土壌炭素率の向上  
地球温暖化防止への貢献

## 土

土壌診断・物質循環  
バランスのとれた生きた土

## 飼料

フードマイレージ  
国産飼料給与率の向上

## エネルギー

自然エネルギーへの転換  
化石燃料脱却

放牧は春の雪解けと共に始まり  
秋、積雪と共に終わります。

4月下旬から10月下旬まで昼夜放牧。雪  
が降るまで牛たちは自由に畑に行きま  
す。冬は、フリーバーン（牛の寝床）と  
放牧地がつながっているので牛たちは  
自由に行き来しています。

## 環境

排水処理・たい肥  
環境負荷の低減



## HOKKAIDO SHINMURA FARM

### 「自然への畏敬と農業の素晴らしさ、そして感動を伝えたい」

この地に十勝しんむら牧場の礎(いしずえ)を築いた開祖が、富山県から入植したのは1933年(昭和8年)3月初旬。まだまだ雪深い未開の地に初めてたどり着いた時の気持ちは一体どんなものだったのだろうかと思いをはせるときがあります。

直径1メートル以上もある大木を切り倒し畑を開く。そして種まき、収穫。馬とともに汗を流し、1年1年少しずつ作りあげたこの牧場を私は4代目として受け継ぎました。

先々代の言葉に

「農業を国の基盤産業として、明確に位置づけ、次代を担う若者が安心して国民の要望する食糧生産に意欲を持って取り組める政策を確立していかなければならない」とあります。

私はこの言葉を胸に、「たべもの」をつくり、「いのち」を育む場として、この仕事に意欲と誇りを持ち取り組んでいます。そして、これからの世代が夢と希望を持ちつづけられる農業を創造していきます。

十勝しんむら牧場は、明るく平和な美しい未来のために、農業と食を通して貢献します。

有限会社 十勝しんむら牧場  
代表取締役

新村 浩隆

## 会社概要

名称	有限会社 十勝しんむら牧場
創業	昭和8年
設立	平成12年6月1日
資本金	300万円
代表者	新村浩隆
事業所	北海道河東郡上士幌町字上音更西1線261番地
従業員数	15名
事業内容	放牧による酪農業、乳処理業、乳製品製造業、菓子製造業、飲食業
主力商品	放牧牛乳、ミルクジャム、生クリーム、チーズケーキ、クロテッドクリーム他
経営面積	山林25ha、草地80ha
飼養頭数	経産牛85頭、総頭数140頭
年間生産乳量	650トン

## 沿革

1933	富山より上士幌に入植
1937	乳牛導入 酪農への第1歩
1994	放牧開始
1998.5	草づくりコンクール 北海道知事賞受賞
1998.7	全国飼料生産コンクール 農林水産大臣賞受賞
1998.11	天皇杯日本農林漁業振興会会長賞受賞
2000.4	ミルクジャム発売
2000.6	有限会社 十勝しんむら牧場設立
2000.6	放牧牛乳発売
2001.10	クロテッドクリーム・焼菓子発売
2005.4	クリームテラス開店
2006.9	第2回「HAL農業賞」経営部門優秀賞受賞
2006.11	第3回「コープさっぽろ農業賞」北海道知事賞・大賞受賞
2006.12	ミルクジャムミニ発売
2007.3	クリームテラスエスタ帯広店開店
2007.4	ヨーグルト発売
2007.6	のむヨーグルト発売
2008.4	農商工連携88選選出
2009.1	ミルクジャムシナモン発売
2009.2	牛乳・乳製品独創性コンテストオリジナル・アレンジ賞受賞
2009.4	ハローキティーミルクジャム発売
2009.7	イチゴミルクジャム・ミルクジャムジャワティー発売
2010.1	ミルクジャムモカ発売
2010.2	ミルクジャムレアスフレ・ミルクジャムさくら・スコーンさくら発売
2010.6	ミルクジャムラムレーズン発売
.	.
.	.
2071	エコビレッジ 人と自然が調和したコミュニティーへ





## 食品製造

生産者として常に消費者の近くに存在し、  
食べる人のために何ができるかを表現します。



**原料**：素材の持ち味を生かし、新鮮で生命力を感じさせる商品開発

**安全**：衛生管理と品質管理の徹底

**品質**：おいしさと感動で食べる人の健康と豊かな食生活に貢献



1	
2	3
4	5

1. 放牧でのびのびと自由に過ごす牛
2. 毎日焼き上げる手作りスコーン
3. じっくりと丁寧に煮詰めるミルクジャム
4. 携帯用ミルクジャムミニ
5. ヨーグルト + ミルクジャム

ACTION

## 十勝しんむら牧場の「食・コミュニケーション」

お客様の食卓により近い存在であるために

### クリームテラスの運営

クリームテラスは牧場のショールームです。  
お客様との双方向のコミュニケーションを図り、  
生産現場に密着し、自然を感じて頂ける「場」を提供します。



よりおいしい「食べ方」の提案

自然を感じ、たのしむ

生産現場の今を知る情報発信・交流・学び



1. クリームテラス内観
2. 赤い牛の看板が目印の外観です
3. クリームテラス エスタ店(JR帯広駅)
4. スコーンとミルクジャム、クロテッドクリームでアフタヌーンティーを
5. ワッフルなどいろいろなメニューを用意しています

1	
2	3
4	5



# 十勝しんむら牧場の「放牧酪農」

自然の持つポテンシャルを引き出す持続可能な酪農スタイル

(社)日本草地畜産種子協会指定(日草種協第49号)  
(独)農畜産業振興機構 畜産業振興事業



白クローバーの根。空中窒素の固定をする  
沢山の根粒がついています。

## 土づくり

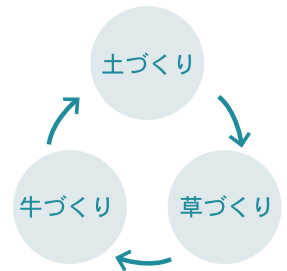
微生物、みみず、昆虫、動物・・・、土の中にはたくさんの生き物が共生しています。土壌の生き物、植物にとって必要なミネラルや栄養のバランスを整えます。牛のふん尿も土づくりには欠かせません。

## 草づくり

豊かな土壌がはぐくんだ牧草は、牛にとって栄養豊富で美味しい飼料になります。

## 牛づくり

広大な放牧地で自由に過ごし、新鮮な草をたべた牛は健康で幸せです。わたしたちに、おいしい牛乳を与えてくれます。



## 放牧酪農

牛に出来ることは牛に。

本来草食動物である牛のあるべき姿、自然な放牧スタイル。

### 放牧酪農のメリット

1

肥料散布や採草など農業機械を使う作業を減らすので燃料使用量を減らすことができます。

→ 化石燃料依存からの脱却

2

高栄養で新鮮な牧草を利用することで、飼料穀物使用量を減らすことができます。

→ 輸入穀物からの脱却

3

人間の取り組み

→ 毎日、常に新鮮な草が食べれるように畑をローテーションする。



## 幸せな牛作り

理想の酪農スタイルを求めたら、

私たちにできることは土、草、牛の本来あるべき環境をつくることでした。



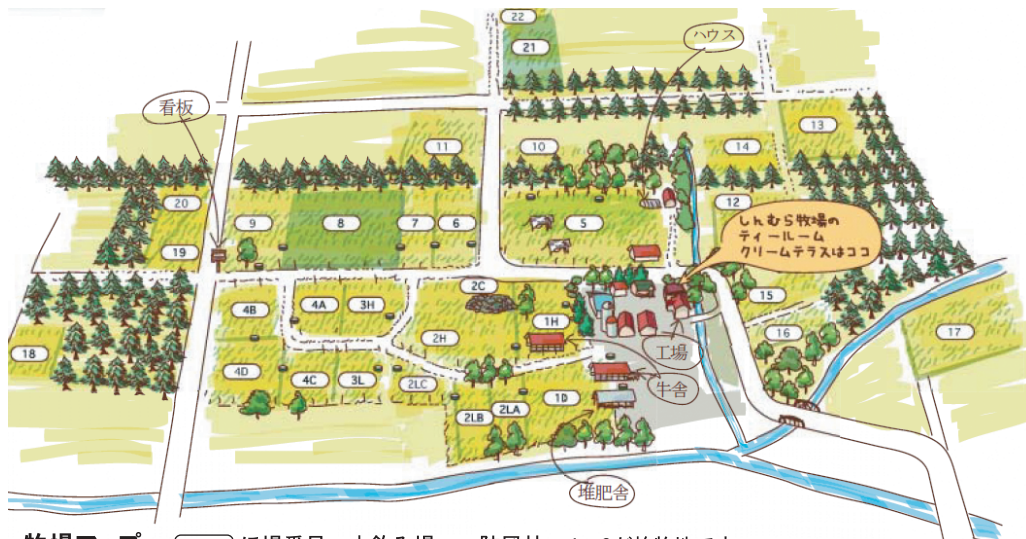
片道1km程の道を1日2往復します。



放牧地で自然に出産します。



牛が自由に必要な牧草を選んで食べます。

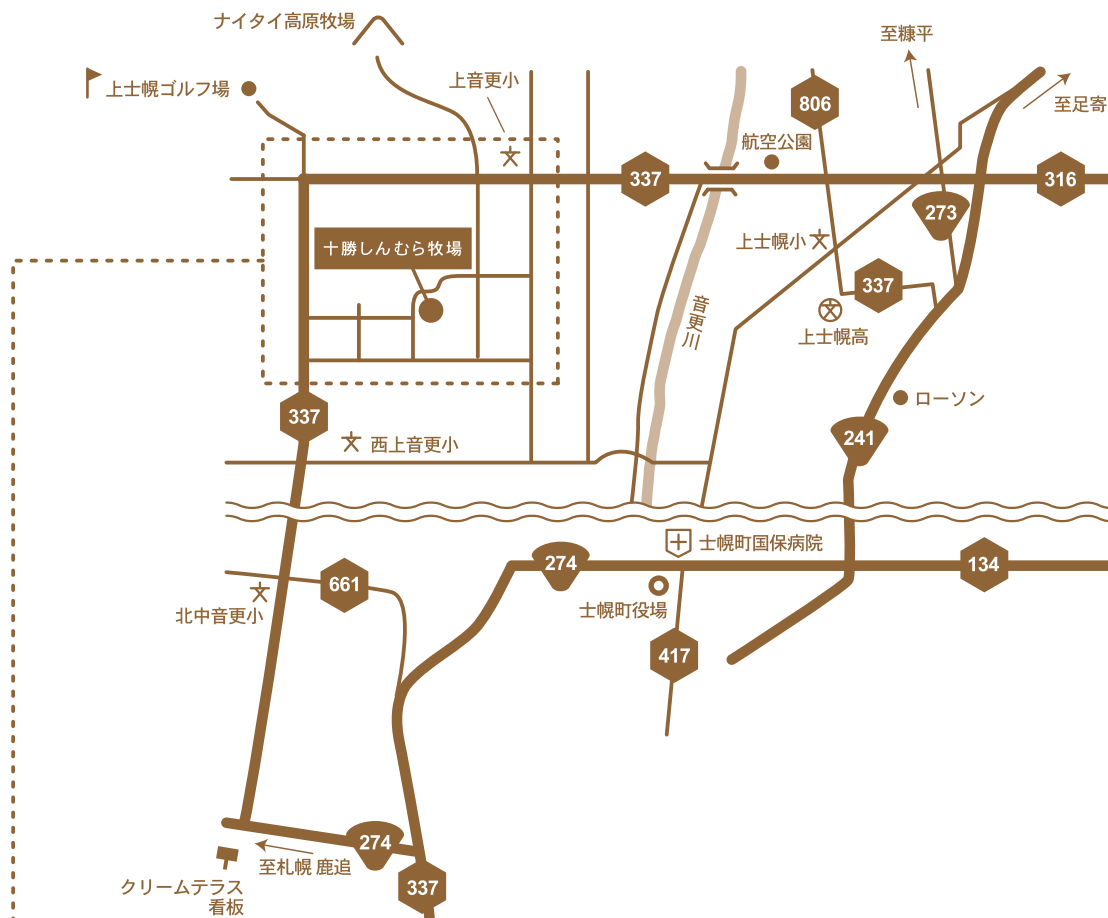


牧場マップ 〇 ほ場番号 水飲み場 防風林 1~9が放牧地です。

### 放牧は

春の雪解けと共に始まり、  
秋、積雪と共に終わります。

4月下旬から10月下旬まで  
昼夜放牧。雪が降るまで牛  
たちは自由に畑に行きます。  
冬は、フリーバーン(牛の寝  
床)と放牧地がつながって  
いるので牛たちは自由に行  
き来しています。



## 十勝しんむら牧場までのアクセス

とち帯広空港から、車で高速道路(幸福IC-音更IC)を通り約1時間  
帯広駅から国道241号線経由で45km(約1時間)

〒080-1407

北海道河東郡上士幌町字上音更西1線261番地

TEL 01564-2-3923 FAX 01564-2-3919

E-mail ushi@milkjam.com

<http://www.milkjam.com>

